

阪神・淡路大震災 25 年 ひょうご安全の日のつどい 開催結果

震災 25 年の節目となる令和 2 年 1 月 17 日、震災の経験と教訓を地域や世代を超えて継承するため、「震災を風化させない—『忘れない』『伝える』『活かす』『備える』」をテーマに「ひょうご安全の日のつどい」を開催した。

震災から四半世紀が経過し、震災未経験世代が増加するなか、子ども・若者の参加を促し、未来へ伝えていく内容を盛り込み、実施した。

1 1.17 のつどい—阪神・淡路大震災 25 年追悼式典—

震災から 25 年の追悼式典を秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席の下で開催し、阪神・淡路大震災で犠牲となられた方々への哀悼の誠を捧げるとともに、安全・安心な社会づくりに向けて歩む決意を内外に発信した。

(1) 式典概要

- ① 名 称 1.17 のつどい—阪神・淡路大震災 25 年追悼式典—
- ② 場 所 兵庫県公館会場（1 階大会議室）
HAT 神戸会場（人と防災未来センター慰霊のモニュメント前）
※両会場を同時中継し、一体的に開催。
※「ひょうごチャンネル（インターネット放送局）」を通じて中継映像をリアルタイムで配信。
※地域の防災イベントの場で放映するなど、式典の模様を広く県民に発信。
- ③ 時 間 11：45～13：30



兵庫県公館会場



HAT 神戸会場

④ 内 容

内 容	兵庫県公館会場	H A T神戸会場
追悼の灯り献灯	中村 翼 (平成7年生まれの若者)	大橋 奈央 (平成7年生まれの若者)
献奏曲 「G線上のアリア」	佐渡裕輝・芸術文化センター 管弦楽団	—
開式の辞※	長岡 壯壽 兵庫県議会議長	—
国歌斉唱	全 員	全 員
黙 禱 (12:00)	全 員	全 員 【カリオンの鐘】 神戸市立なぎさ小学校児童
式辞※	井戸 敏三 兵庫県知事	—
おことば※	秋篠宮皇嗣殿下	—
ご来賓のことば※	武田 良太 内閣府特命担当大臣 (防災) 赤羽 一嘉 国土交通大臣	—
ご遺族代表のことば※	松本 幸子 ご遺族代表	—
献歌曲① 「しあわせ運べるように」	佐渡裕輝・芸術文化センター 管弦楽団、 神戸市立桂木小学校合唱団	神戸市立なぎさ小学校児童
県民のことば※	子ども達からのメッセージ (小学生)南あわじ市立福良小学校6年 北岡 愛菜 (中学生)芦屋市立精道中学校3年 桑山 響 (高校生)兵庫県立舞子高等学校3年 坂口 陽菜	—
1.17 ひょうご安全の 日宣言※	河田 恵昭 県民会議企画委員長	—
献歌曲② 「アヴェ・ヴェルム・コルプス」	佐渡裕輝・芸術文化センター 管弦楽団、神戸市混声合唱団	—
御供花(白菊)	秋篠宮皇嗣同妃両殿下	—
献花(白カーネーション)	全 員	全 員
閉式	—	—

※ 式辞・おことば等の発言内容は(別添)に掲載。

- 追悼式典の開式前には、震災復興の歩みと、震災25年事業の取組み等を映像化した「阪神・淡路大震災25年ーこれまでの歩み、そして未来へー」を放映した。
- 追悼の灯りは、1月9日(木)に人と防災未来センターの慰霊のモニュメント前でH A T神戸内の認定子ども園の園児たちが採火し、その模様を会場で放映した。

⑤ 参加者 4,400人(県公館会場：400人、H A T神戸会場：4,000人)

(2) 献花・記帳

- ① 記 帳 590人(神戸市立神戸生田中学校、兵庫県公館、人と防災未来センター)
- ② 献 花 2,300人(兵庫県公館、人と防災未来センター)

2 1.17 ひょうごメモリアルウォーク 2020

阪神・淡路大震災から復興した街並みや震災モニュメントを巡り、防災意識を高めるとともに、東日本大震災などでも明らかになった交通機関の途絶を想定し、来たるべき災害に備えるため、緊急時の避難路、救援路として整備された山手幹線等を歩いてゴールのHAT神戸をめざした。

特に、震災25年にあたり、新たに、ウォークに防災学習（講話）を組み込んだ「子ども・若者ウォーク」を実施し、被災地内の小中高校700人の参加を得た。

区分		スタート時間	出発地点	参加者数	
一般 ウォーク	東ルート	15km コース	8 : 0 0	西宮市役所	500 人
		10km コース	8 : 3 0	芦屋市川西運動場	400 人
		2 km コース	1 1 : 0 0	王子公園補助競技場	400 人
	西ルート	15km コース	8 : 0 0	須磨海浜公園	300 人
		10km コース	8 : 3 0	神戸常盤アリーナ	300 人
		5 km コース	1 0 : 1 5	神戸市立中央体育館	700 人
子ども・若者ウォーク		各自設定	神戸市内の3小中高校	700 人	
企業等訓練ウォーク		各自設定	11 企業・事業所等	600 人	
計		—	—	3,900 人	

ボランティア数 200 人(休憩所の運営等)



メモリアルウォーク・西 15km コース



メモリアルウォーク・東 2km コース



休憩所での防災力強化県民運動ポスターコンクール作品展示



子ども・若者ウォーク防災講話

3 交流ひろば・交流ステージ・防災訓練等

(1) 交流ひろば

関係機関やNPO、ボランティアグループ等による活動展示や炊き出し、子どもたちを対象にした防災体験、防災教室などを実施した。

展示コーナーには、83 団体（平年の3割増）が出展し、多様な情報を発信・交流。

① 時間 10:30~15:00

② 場所 HAT神戸・なぎさ公園（神戸市中央区脇浜海岸通）

③ 内容

・関係機関、団体、企業による展示・体験

〔フェニックス共済、こくみん共済、耐震改修、食料品備蓄、災害伝言ダイヤル、インフラ・電気・ガスの防災対策、災害用トイレ、炊き出し 等〕

・阪神・淡路大震災の経験・教訓を発信する展示

〔減災グッズ、災害時の食や健康、DMAT、災害対策車 等〕

・東日本大震災、熊本地震等の被災地応援・観光のPR等

〔東北3県の観光PR・特産品販売、熊本県・岡山県等被災地応援ブース、シンサイミライノハナ(東北へのメッセージ)、新宮晋アートプロジェクト「元気のぼり」、災害ボランティア活動 等〕

・ボランティアグループ等による炊き出し など



企業による体験車両（起震車）



関係団体による展示



学生団体による炊き出し



被災地支援（物販・観光PR）

(2) 交流ステージ

被災地のマスコットキャラクターによる防災クイズショーやミニライブ等に加え、新たにエンターテイメントや和太鼓ライブを実施した。

- ① 時間 10:30～15:00
- ② 場所 HAT神戸・なぎさ公園（神戸市中央区脇浜海岸通）
- ③ 内容
 - ・熊本観光復興PR（くまもん隊）
 - ・ミニライブ（あまゆうず、チキンガーリックステーキ）
 - ・防災クイズ（日本気象協会の気象予報士、はばタン、東北・岡山のマスコットキャラクター等）
 - ・エンターテイメント（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）
 - ・和太鼓ライブ（太鼓奏者 木村優一）



エンターテイメント(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン)



和太鼓ライブ

(3) 防災訓練

県民参加による防災関係機関と連携した実践的な「防災訓練」を実施した。

- ① 時間 13:00～15:00
- ② 場所 HAT神戸・なぎさ公園及び南側海上（神戸市中央区脇浜海岸通）
- ③ 内容

海上からの避難広報訓練、要援護者避難誘導訓練、漂流者救出救助訓練、漂流者搬送訓練、負傷者等搬送訓練、物資搬送訓練、海上消火訓練、ドローンを活用した上空からの避難広報訓練・映像配信訓練、巡視艇の一般公開

- ④ 参加者 500人



ドローンを活用した映像配信訓練



要援護者避難誘導訓練



負傷者等搬送訓練



物資搬送訓練

(4) 人と防災未来センター施設見学

毎月 17 日は、人と防災未来センターは無料開放としており、メモリアルウォークや追悼式典参加者が来館した。(見学者 5,200 人)

また、震災 25 年の機会を捉えて実施した特別展示等を多くの方が観覧した。

(1) 震災特別展示

①GIS で見直す被災地図

専門家の協力を得て、手描きなどでデジタル化が進んでいなかった被災地の地図をデジタル化して展示。

②公開：新たなる震災資料

これまで公開されてこなかったセンターの収蔵資料を、震災の経験がない地元中学生が作成した資料の紹介文とともに新たに公開し、震災の経験や教訓を来館者に紹介。

(2) 117BOX・いいなの箱 展

阪神・淡路大震災から 25 年が経過する中で、記憶に残る大切なものの提供を広く呼びかけ、お寄せいただいたモノ・コトを 117 個の透明の箱に入れ、それぞれに込められたメッセージとともに展示。



GIS で見直す被災地図<西館 1 階>



117BOX・いいなの箱展<西館 2 階>

【参加関係機関・団体】

① 展示 83団体 [HAT神戸・なぎさ公園 10:30~15:00]

【暮らしを守る】32団体

(公財)兵庫県住宅再建共済基金、こくみん共済coop兵庫推進本部、(公社)兵庫県歯科衛生士会、CE発電設備点検(株)、大阪ガス(株)、兵庫県建築指導課、神戸地方气象台、国土交通省近畿地方整備局、おいしいごはんを食べよう県民運動推進協議会、(公社)兵庫県栄養士会、西日本電信電話(株)兵庫支店、兵庫県眼科医会、(株)NTTドコモ、(株)芝本商店、兵庫県環境整備事業協同組合、(株)ミヨシ、(一財)日本気象協会、(一社)兵庫県LPガス協会、日産プリンス兵庫販売(株)、江崎グリコ(株)、(株)カンスト、(株)KEIKAコーポレーション、兵庫JRAT(大規模リハビリテーション支援関連団体協議会)、(一社)兵庫県医師会、兵庫県立聴覚障害者情報センター(兵庫県ユニバーサル推進課)、兵庫県石油商業組合・石油連盟、5日で5000枚の約束。プロジェクト、兵庫県防災企画課、(公財)兵庫県消防協会、兵庫県新産業課、パナソニック(株)ライフソリューションズ社、イオンリテール(株)近畿カンパニー

【助け合い】13団体

陸上自衛隊第3特科隊、いきいきネットワーク、なぎさふれあいのまちづくり協議会なぎさ防犯グループ、脇の浜ふれあいのまちづくり協議会、神戸学院大学ボランティア活動支援室学生スタッフ災害班、こころ豊かな人づくり神戸500人委員会、東日本大震災避難当事者団体べっこMaMa、NPO法人兵庫セルフセンター、ワークメイト、NPO法人アジア女性自立プロジェクト、兵庫県赤十字奉仕団、ワールドマスターズゲームズ2021関西兵庫県実行委員会(兵庫県教育委員会事務局スポーツ振興課)、茶道裏千家淡交会青年部近畿第三ブロック

【被災地を支援】10団体

新宮晋アートプロジェクト、NPO法人Co.to.hana、北海道、南三陸町・気仙沼市、岩手・宮城・福島県大阪事務所、岡山県・岡山県観光連盟、熊本県、兵庫県県民生活課・ひょうごボランティアプラザ、CODE海外災害援助市民センター・被災地NGO協働センター、神戸・心絆

【防災学習・体験】17団体

認定NPO法人日本レスキュー協会、NPOひまわりの夢企画、兵庫県立こどもの館、兵庫県立舞子高等学校環境防災科、兵庫県立松陽高等学校、神戸弘陵学園高等学校、ふくしま学宿チームHYOGO、減災活動団体akari、アトリエ太陽の子・ボランティア部、神戸国際大学防災救命クラブ(DPLS部)、神戸学院大学現代社会学部社会防災学科(シーガル・レスキュー、前林ゼミ)、ポーアイ4大学連携推進センター、兵庫県立大学防災キャンパス、関西国際大学国際防災研究会KUIS BOSAI、兵庫県立大学地域ケア開発研究所・看護学研究科(DNGL)、NPO法人兵庫県レクリエーション協会、損害保険ジャパン日本興亜(株)

【防災最前線】11団体

兵庫県警察本部、神戸市消防局、兵庫県災害医療センター、国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所、陸上自衛隊第3特科隊、海上自衛隊阪神基地隊、自衛隊兵庫地方協力本部、海上保安庁第五管区海上保安本部、日本赤十字社兵庫県支部、(公社)兵庫県看護協会、神戸市危機管理室

② 交流ステージ 6団体 [HAT神戸・なぎさ公園 10:30~15:00]

<午前の部>

- ・オープニング・ステージ1 くまモン隊(熊本観光復興PR)
- ・ステージ2 あまゆうず(ミニライブ)
- ・ステージ3 防災クイズ(協力:日本気象協会「トクする!防災」)

<午後の部>

- ・ステージ4 チキンガーリックステーキ(ミニライブ)
- ・ステージ5 ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(エンターテイメント)
- ・ステージ6 太鼓奏者 木村優一(和太鼓ライブ)

4 地域のつどい

地域	日時・場所	参加者	事業名・主な内容
神戸	1月17日(金) 11:45～13:30 神戸生活創造センター 8:00～12:00 神戸市内のメモリアル ウォークスタート4地点	1,900人	「ひょうご安全の日」の運営等 ・ひょうご安全の日のつどい追悼式典映像上映 ・阪神・淡路大震災パネル展示 ・1.17メモリアルウォーク2020スタート地点(須磨海浜公園、神戸常盤アリーナ、神戸市立中央体育館、王子公園補助競技場)の企画・運営
阪神南	1月17日(金) 13:30～15:30 尼崎市立園田中学校	850人	「ひょうご安全の日」阪神南地域のつどい ・ひょうご安全の日のつどい追悼式典映像上映 ・阪神・淡路大震災被災状況のパネル展示 ・「1.17は忘れない」地域防災訓練 ・フェニックス共済のPR等
阪神北	1月13日(月・祝) 13:30～16:15 川西市アステホール	184人	「ひょうご安全の日」阪神北地域のつどい (防災講演会) ・基調講演「避難と避難行動～『わがこと意識』で災害を乗り越える防災心理学入門」 ・防災士・防災リーダーによるパネルディスカッション ・防災士・防災リーダーによる展示・交流会 ・「ひょうご『学ぼう災』かるた」の配布・体験 ・フェニックス共済のPR等
東播磨	1月26日(日) 10:00～14:00 明石市防災センター	127人	ジュニア・地域防災スクール (防災講話) 動画で学ぶ「地震や水害から命を守る方法」 (防災訓練) ・災害食づくり、施設見学・体験、応急手当・搬送訓練 ・ひょうご安全の日のつどい追悼式典映像上映等
	2月9日(日) 10:00～14:00 加古川市防災センター	107人	ジュニア・地域防災スクール (防災講話) 動画で学ぶ「地震や水害から命を守る方法」 (防災訓練) ・災害食づくり、施設見学・体験、応急手当・搬送訓練 ・ひょうご安全の日のつどい追悼式典映像上映等
北播磨	2月9日(日) 10:30～13:30 西脇市立西脇中学校	800人	「ひょうご安全の日」北播磨地域のつどい (防災啓発) ・「1.17ひょうご安全の日宣言」の発信 ・防災活動の啓発パネル展示 ・フェニックス共済のPR・出前受付等
中播磨	1月18日(土) 13:30～16:30 神河町中央公民館 グリンデルホール	269人	「ひょうご安全の日」中播磨のつどい (中播磨地域防災講習会) ・講演「防災気象情報を有効に活用しよう」 ・講演「地域防災力の向上～地区防災計画の策定に向けて～」等 ・フェニックス共済のPR等

地域	日時・場所	参加者	事業名・主な内容
西播磨	1月18日(土) 13:30~16:00 上郡町生涯学習 支援センター	350人	「ひょうご安全の日」西播磨地域のつどい (防災講演・防災啓発) ・「1.17ひょうご安全の日宣言」の発信 ・防災講演「みんなが助かる防災に向けて」 ・防災活動事例発表 ・パネル等展示(阪神・淡路大震災の経験と教訓、フェニックス共済のPR) ・ひょうご安全の日のつどい追悼式典映像上映等
但馬	1月14日(火)~ 1月24日(金) 平日9:00~17:30 豊岡総合庁舎	200人	「ひょうご安全の日」但馬地域のつどい (防災啓発) ・パネル展示(災害時の様子、防災・減災の取組) ・映像上映(災害発生メカニズム等) ・フェニックス共済のPR
丹波	1月17日(金) 9:45~11:45 丹波篠山市立城南 小学校	270人	「ひょうご安全の日」丹波地域のつどい (防災訓練等) ・地震を想定した避難訓練 ・防災講話 ・「しあわせ運べるように」の合唱 ・「1.17ひょうご安全の日宣言」の宣誓 ・防災グッズ贈呈 ・防災訓練 防災クイズ、自衛隊車両・装備品等展示、段ボールベッド体験、地震体験車訓練、警察車両見学
淡路	1月17日(土) 5:30~6:15 北淡震災記念公園	200人	「ひょうご安全の日」淡路地域のつどい (追悼行事) ・主催者、遺族代表等による精霊流し ・犠牲者への黙祷 ・犠牲者への鎮魂の祈りと復興への想いを込めて、来場者とともに全員で合唱 ・主催者、遺族代表等による献花 ・「1.17ひょうご安全の日宣言」の発信等
	1月22日(水) 13:15~15:45 洲本市文化体育館	350人	「ひょうご安全の日」淡路地域のつどい (シンポジウム) ・講演「淡路の共助の真実に迫り、今後に活かすー発災から25年、25年の証言を中心に」 ・講演「厳しさを増す災害に向かい合う~求められる主体的な自助・共助~」 ・ひょうご安全の日のつどい追悼式典映像上映等

(別添)

1 開式の辞

本日、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、多くのご参列の皆さまとともに、「1.17のつどい ー阪神・淡路大震災 25 年追悼式典ー」を開催できますことを、ひょうご安全の日推進県民会議を代表して、心より感謝申し上げます。

阪神・淡路大震災から 25 年を迎えました。震災の風化が懸念されるなか、震災から学んだ教訓を忘れることなく、内外に広く発信し、後世に伝えることこそ震災を経験した私たちの責務です。また、今後の災害に備えて官民一体となった防災・減災対策を講じていかなければなりません。

ここに、震災で犠牲となられた方の尊い御霊に対し、心から哀悼の誠を捧げますとともに、安全で安心な社会の実現に向け、さらなる努力を続けてまいりますこととお誓い申し上げ、ただ今から「追悼式典」を開会いたします。

令和 2 年 1 月 1 7 日

ひょうご安全の日推進県民会議 副会長
兵庫県議会議長 長岡 壯壽

2 式辞

阪神・淡路大震災から 25 年の歳月が過ぎました。

互いに支え合いながら、創造的復興をめざして歩み続けたこの 25 年は、長いようにも瞬く間のようにも感じられます。

本日、ここに秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご臨席を仰ぎ、ご遺族並びに政府代表・防災担当大臣、国土交通大臣、衆議院議長、参議院副議長、最高裁判所長官をはじめ、多くのご来賓の皆様にご出席をいただき、「阪神・淡路大震災 25 年追悼式典」を執り行うことができますこと、心から感謝いたします。

尊い犠牲となられた方々に心から哀悼の誠を捧げつつ、悲しみを胸に幾多の苦難を乗り越え、まちの復興や生活の再建に真摯に取り組んでこられた皆様に改めて敬意を表します。また、復旧復興にご支援いただいた内外の皆様にご心からお礼を申し上げます。

あの震災は、兵庫に未曾有の被害をもたらすとともに、成長から成熟へと向かう時代の転換点にあつて過度な人口集中、高齢社会の到来など近代都市の抱える問題点を浮き彫りにしました。私たちは、そこから単なる復旧復興ではなく、21 世紀の成熟社会を見据えた創造的復興をめざして、内外からの温かい支援を力に変え、県民一丸となって懸命の努力を重ねてきました。

その過程では、高齢者の見守り体制やこころのケア、ボランティア活動への支援といった先導的な取り組みや、阪神・淡路大震災復興基金、被災者生活再建支援制度、住宅再建共済制度など、被災地の実情に即した新たな仕組みが生まれました。

こうした経験と教訓は、内外の被災地復興に活かされています。2005 年の国連防災世界会議では、兵庫の経験と教訓を踏まえて国際的な防災指針「兵庫行動枠組」が策定され、また、2015 年に策定された「仙台防災枠組」では、兵庫が実践してきた創造的復興が“Build Back Better”として盛り込まれました。

東日本大震災で効果を発揮した関西広域連合によるカウンターパート方式の支援は、その後の熊本地震や豪雨災害での広域支援で更なる広がりを見せています。

また、兵庫県では、新たに大規模災害時のボランティア活動を支援する制度を創設し、県民ぐるみの被災地支援に取り組んでいます。

阪神・淡路大震災以降、東日本大震災、熊本地震、大阪府北部地震などの地震災害だけでなく、台風などによる豪雨が頻発し、被害が激甚化するなど、わが国は「大災害時代」に突入しています。今後、国難ともなりうる南海トラフ巨大地震の発生も危惧されており、備えを強めなければなりません。

それには、過去から学び、未来につなぐことが大切です。しかし、兵庫においても震災を経験していない県民が増え、震災の風化が懸念されます。

このため、震災 25 年の節目を控え、昨年 4 月から「震災を風化させない」－「忘れない」「伝える」「活かす」「備える」を基本コンセプトに、県民総参加で、とりわけ震災後に生まれた若者世代の参画を得ながら、震災の経験と教訓を発信し、災害への備えや対策の充実につなげる取り組みを展開しています。

また、次なる災害に備え、建物の耐震化などの地震対策、防潮堤の強化などの津波・高潮対策、治山・砂防の推進とともに、高齢者や障害者など災害時要援護者の避難対策、地域での実践的な防災訓練など、自助、共助、公助を組み合わせた防災・減災対策を進めています。

今後の大規模広域災害に対し、より強固な体制で備えることも大切です。関西広域連合による防災体制の強化はもとより、事前の備えから復旧復興まで一連の災害対策を担う防災機関の創設に向けた提案を進めます。

震災から 25 年を迎え、兵庫もようやく復旧復興から新たな兵庫づくりに目を向ける時代となりました。令和の時代の到来とともに今、私たちは新たなステージを迎えています。

県民、団体、企業、行政が一体となって安全安心な社会を築き、その基盤の上で、人口減少対策、少子高齢化対策、新産業の振興、人材育成など、当面する県政課題に正面から挑み、震災を乗り越えてきた力を再び結集して、人と地域の未来に夢や希望が広がる、豊かで生活の質の高い「すこやか兵庫」の実現に全力で取り組んでいくことをお誓いし、式辞といたします。

令和 2 年 1 月 1 7 日

ひょうご安全の日推進県民会議会長
兵庫県知事 井戸 敏三

3 おことば

阪神・淡路大震災から、本日で25年が経ちました。ここに、震災によって亡くなった人々の御霊に深く哀悼の誠を捧げます。

25年前のこの日、住み慣れたまちが一瞬にして崩壊し、かけがえのない6,400名以上の命が奪われました。私は震災の後、幾度となくこの地を訪れましたが、その度に、被災者をはじめ兵庫県の皆様が、困難な状況に直面しながらも、心を一つにして励まし助け合いながら、全国から集まった大勢のボランティアとともに、懸命の努力で美しい街並みを蘇らせていることに、深い感銘を覚えました。

これまで、県民、団体、行政が一体となって、幾多の苦難を乗り越え、ハード・ソフト両面から災害に強い地域づくりに尽くしてこられました。

また、県内に集積した国際的な防災・人道支援機関を活かし、国際会議などを通じて震災の教訓を世界に発信するなど、世界各国・地域における防災体制の強化にも貢献しています。

阪神・淡路大震災の後も、東日本大震災をはじめとして、大きな自然災害が各地で発生しております。その度に、多くのボランティアや応援職員など、兵庫県の皆様が現地に駆けつけ、被災者に寄り添いながら、自らの震災の経験と教訓を活かした支援が行われていることは、誠に意義深いことと考えます。

震災から25年が経過し、この地においても震災を経験していない世代が増えていることから、「震災を風化させない」取り組みを進めていると伺っております。その中でも、特に震災を経験していない世代の人々が、積極的に震災や防災・減災について学び、周囲や社会に働きかけながら防災・減災活動に取り組んでいることを大変心強く思います。

これからも、震災の経験と教訓を踏まえ、人々が助け合い、安全で安心して暮らせる地域づくりが進められるとともに、その知見が国の内外に広まり、また、世代を越えて継承されていくことを願っております。

おわりに、亡くなった人々の御霊安らかならんことを心からお祈りし、追悼の言葉といたします。

4 ご来賓のことば（防災担当大臣）

本日ここに、「1・17のつどい 阪神・淡路大震災25年追悼式典」が執り行われるに当たり、政府を代表いたしまして、謹んで追悼の言葉を捧げます。

阪神・淡路大震災から、25年の歳月が経過いたしました。25年前のこの日、6400名を超える尊い命が失われました。震災の犠牲となられました方々の無念さと、最愛の御家族を失った御遺族の深い悲しみに思いをいたしますと、誠に痛恨の極みであります。ここに改めて、震災により亡くなられた方々とその御遺族に対しまして、心から哀悼の意を表します。

この震災では、50万戸以上の住家が被害を受け、発災当初、約32万人もの人々が避難を余儀なくされ、不自由な生活を強いられました。しかしながら、被災された方々や自治体に加え、全国から駆け付けた多くのボランティア等が一体となって、全力で復旧・復興に取り組んでこられた結果、目ざましい復興が図られました。多くの方々の御尽力に対し、心より敬意を表します。

また、25年の節目を迎えた今年度、兵庫県では、「震災を風化させない」を基本コンセプトに、大震災の経験と教訓を県内外に広く発信し、次の大災害への備えや対策の充実につながる多彩な事業を展開していると伺っております。このような取組が、単なる復旧にとどまらない、創造的復興のモデルとなり、より一層、安全で魅力的な地域づくりにつながることを確信しております。

近年、地震、台風、豪雨や火山噴火など災害が多発しております。特に昨年は、令和元年台風第15号、台風第19号等、多くの災害により、各地に甚大な被害がもたらされました。

政府としても、有識者や被災自治体の御意見等も伺いながら、これらの一連の災害に関する検証を現在進めているところであり、その結果を踏まえ、防災対策の充実に努めてまいります。

災害が発生しやすい我が国においては、防災は国家の極めて重要な任務であります。政府といたしましては、様々な災害から国民の生命、身体、財産、そして生活を守り、安心して暮らせる社会の実現に向けて、引き続き全力を挙げてまいります。

最後に、犠牲となられた方々の御冥福をお祈りいたしますとともに、御遺族の皆様方に心よりお悔やみを申し上げて、追悼の言葉といたします。

令和2年1月17日

内閣府防災担当大臣 武田 良太

5 ご来賓のことば（国土交通大臣）

秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、阪神・淡路大震災 25 年追悼式典にあたり、犠牲となられた方々の御冥福をお祈り申し上げますとともに、謹んで追悼の辞を申し述べます。

1995 年 1 月 17 日午前 5 時 46 分、夜明け前の静寂を突然襲った恐怖の揺れ、耳をつんざくような家財道具が壊れる音、倒れるはずのない阪神高速道路の倒壊、潰れてしまった住家から助けを求める人々の悲痛な叫び、なすすべなく一晩中燃え続け、がれきの山となってしまった美しい街並み。

未曾有の被害と多くの尊い犠牲をもたらした阪神・淡路大震災は、人々に終生忘れがたい記憶と忘れてはならない教訓を残しました。

広範囲にわたって倒壊した家屋やビルや商店街、液状化現象や地盤沈下によって破壊された道路、鉄道、港湾。これまで都市を支えてきたライフラインやインフラの甚大な被害を前に、わが国の安全・安心なまちづくりに向けた本格的な取組が始まりました。

建物の耐震化や都市の再開発が進み、被災者生活再建支援法の成立など災害法制が整備され、応急仮設住宅の充実や避難所の環境改善、プッシュ型の復旧復興支援、そして、本格的なボランティア活動が定着、学校区ごとの防災・福祉コミュニティの発足、防災士 18 万人の誕生など、被災者に寄り添い、一人の人の尊厳を大切にするわが国の防災・減災対策は、着実に前進して参りました。

震災から 25 年、気候変動の影響により、100 年に一度の激甚災害が、いつ、どこで発生しても不思議でなくなったわが国において、阪神・淡路大震災の教訓を風化させることなく、次の世代に伝え、国民の皆様の生命と暮らしを守るため、防災・減災が主流となる安全・安心な国づくりに総力をあげて取り組んでいくことをお約束申し上げます。

結びに、御霊の永遠に安らかならんことをお祈り申し上げますとともに、御遺族の皆さま、被災された全ての方々の御平安を心から祈念し、追悼の言葉といたします。

令和 2 年 1 月 17 日

国土交通大臣 赤羽 一嘉

6 ご遺族代表のことは

本日ここに、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席のもと『1.17のつどいー阪神・淡路大震災25年追悼式典』が厳粛に執り行われ、ご来賓の皆様方から、丁重な追悼のお言葉を賜りましたことに、遺族を代表して心からお礼申し上げます。

あの日は、寒い朝でした。2階建の家は、1階が潰れて、その1階で眠っていた妹を、従妹と、ご近所の方々が力を合わせて助け出してくれました。そして、近所の方の車で消防署に運ばれたのです。しかし、心肺停止でした。

地震の前日、コーヒーを飲みながら、妹は、香港の友人の話を楽しそうに話していました。「年末には、イギリスか、フランスに行ってみたいね。」と話していた矢先のことでした。

毛布にくるまれて運ばれたところは、高校の体育館でした。全面に敷かれた青いビニールシートは、次から次へと運ばれてくるご遺体で、埋め尽くされていきました。お父さんに付き添われた、小学生らしき男の子。年配のご夫婦。苦しそうな顔の男の人。声をかければ、名前を呼べば、目を覚ましそうでした。

ライフラインが全て止まる中で、一番困ったことは、飲み水の確保でした。給水車の長い列に並び、持ち帰った水は、飲み水やカップラーメンに使い、最後のスープまで飲み干しました。

顔を洗い、口をすすいだ水は、風呂桶に貯めました。黒く変色した水は、最後にトイレ用に使いました。水は、命です。最後の一滴まで、無駄にはできませんでした。

あの日から、25年。大きな災害は繰り返しやってきます。果たして、私たちは、災害の苦しみのどん底にいる人を、助け上げる社会を作り上げてこれたでしょうか。潰れた家のなかで、燃える炎の中で、救助を待ちながら亡くなられた皆様のことは、決して忘れません。

2011年の東日本大震災の後、私は福島 of 仮設住宅の炊き出しボランティアに加わりました。そこで、浪江町の漁師さんから、住む家、生業、漁師仲間を失った話を聴きました。その事がきっかけで、人と防災未来センターの語り部に手を上げ、震災の経験を伝える活動を続けています。

将来起こるといわれている南海トラフの巨大地震。今までに払ってきた沢山の犠牲から学び、備えるならば、命を守ることは、必ずできると思います。

最後に、亡くなられた6,434名の皆様のご冥福を、心よりお祈り致します。

令和2年1月17日

遺族代表 まつもと 松本 さちこ 幸子

7 県民のことば

阪神・淡路大震災では、わたしの住んでいる淡路島でもたくさん被害がありました。ある新聞記事には、「住民づきあいの良い淡路島では、すぐに全住民の安否が確認され、火事もほとんど起きなかった」と書かれていました。いつか起こる南海トラフ大地震に備え、日頃から家族・地域・友だちとのつながりを大切にしたいと思います。

昨年8月、防災ジュニアリーダーとして東北ボランティア活動に参加し、東日本大震災について学びました。大川小学校の姿を見たときにはあまりの被害の大きさに言葉が出ませんでした。『未来を拓く』という言葉もそこで知りました。自分たちの力で未来を創っていくために、今、生きていることに感謝し、これからも精一杯、生き抜いていきます。

南あわじ市立福良^{きたおか}小学校6年
北岡 愛萊^{あいら}

私の中学校では、震災によって5名の尊い命が奪われました。その後の卒業式は、体育館が避難所となっていたため、グラウンドに建てられた仮設テントで行われたと聞きました。

あれから25年、私たちは毎年1月17日に追悼集会を行ったり、『慰霊と復興のモニュメント』を訪れたりして、震災について学んできました。また、当時全国の中学校から励ましの手紙や文房具などが届けられていたことを知り、改めて多くの人から支えられ、励まされてきたことを感じました。

これからは、私たちが行動を起こしていかなければなりません。「かけがえのない命」を守るため、私たちは互いを思いやる気持ちを大切に、自分たちが率先してできることを考え、実行していきたいと思います。

芦屋市立精道中学校3年
桑山 響^{くわやま きょう}

「災害を経験していない私に何ができるだろう。」舞子高校環境防災科に入学してからずっと考えてきました。はじめは「語り継ぐ」ということに抵抗がありました。災害の知識が未熟で、思いをうまく伝える自信がなかったからです。

しかし防災を学ぶことで、「伝える人がいなくなり、災害が風化する方が怖い」と考えるようになりました。大切な家族、友達、神戸のまち。守りたいものがあるからこそ、震災の経験と教訓を語り継ぎたいと思います。

特に大切だと思うのは自助と共助です。災害への意識を高め、いざという時に自分の意志で避難すること。災害時に活かせる繋がりを日頃から作っておくこと。これらが当たり前となる防災の輪を広めるため、このまちに生まれて次世代を担うものとして取り組んでいきます。

兵庫県立舞子^{さかぐち}高等学校3年
坂口 陽菜^{ひな}

8 1.17 ひょうご安全の日宣言

阪神・淡路大震災から 25 年が経った
私たちは国内だけでなく 世界の多くの人たちにも
この震災の教訓を知ってもらいたい 活かしてもらいたい
そのように願って 伝え続けてきた

ボランティア こころのケア 生活再建支援制度
創造的復興を目指す中で
社会を支える新たな「しくみ」も生まれた

今なお災害がやむことはない
昨年 6 月に山形県沖を震源とする地震が発生し
8 月に九州北部豪雨が起こった
9 月の台風 15 号は 風台風となって 長期停電をもたらし
10 月の台風 19 号は 雨台風となって その後の豪雨との連続災害により
広域にわたる氾濫被害と浸水被害を繰り返した
ボランティアは不足し きめ細かな生活再建支援が求められている

令和の時代が希望の時代になることを願い
新しい時代を 災害で特徴づけてはいけない
災害を他人事と考えず
正視して対処することが大切だ

震災から四半世紀
若者世代に その記憶はない
いまこそ 震災を風化させない取組が必要だ
震災から生まれた「しくみ」を育て
次世代につなぎ 「災害文化」として定着させなければならない
日常防災を豊かにして 安全安心社会に向かうのだ

忘れない 伝える 活かす 備える 阪神・淡路大震災の教訓を
震災の教訓は すべての時代に通じる知恵だから

2020年1月17日
ひょうご安全の日推進県民会議